

内務省地理局における地図蓄積II 管理構造の復原的研究

(課題番号一四五二〇三四九)二〇〇二二〇〇三年度科学研究補助金 基盤研究(C)(2)

研究成果報告書

二〇〇四年三月

研究代表者 横山 伊徳

(東京大学史料編纂所教授)

目次

1.	研究の概要		
2.	研究報告		
2.1.	成果の概要（横山）		1
2.2.	地理編纂と歴史編纂 「内務省引継地図」「内務省地理局文書」をめぐって	杉本 史子	4
2.3.	皇国地誌編纂過程における地図目録と地図主管の移動	千葉 真由美	12
3.	内務省地理局地誌課地図目録		
3.1.	「内務省地理局地誌課所蔵地図目録」(RS4145-22)による地図一覧		47
3.2.	「内務省引継地図」より修史館作成地図一覧		62
4.	史料編さん所蔵内務省地理局地誌課文書目録		
4.1.	はじめに		64
4.2.	「内務省地理局文書」目録		65
4.3.	地理局地誌課職員一覧（明治五～三三カ）（「内務省地理局文書」A-011）		77
4.4.	地理局員一覧（明治一五年二月）（「内務省地理局文書」A-008）		78

1. 研究の概要

1.1. 研究課題名 内務省地理局における地図蓄積Ⅱ管理構造の復原的研究

1.2. 研究種目名 基礎研究(C)(2)

1.3. 課題番号 一四五—〇三四九

二〇〇二—二〇〇三年度

1.4. 研究期間

1.5. 研究経費 二〇〇二年度 二、二〇〇千円

1.5.2. 二〇〇三年度 一、四〇〇千円

1.6. 研究組織

横山 伊徳(東京大学史料編纂所教授)

1.6.1. 研究代表者

小野寺 淳(茨城大学教育学部教授)

1.6.2. 研究分担者

杉本 史子(東京大学史料編纂所助教授)

1.6.2.1. 松本 良太(東京大学史料編纂所助教授)

1.6.2.2. 井上 聡(東京大学史料編纂所助手)

1.6.2.3. 千葉真由美(東京大学史料編纂所COE研究員)

1.6.2.4. 研究協力者

2. 研究報告

2.1 成果の概要

内務省地理局（一八七四年地理寮として発足）一八九一年廃止は、陸海軍による全国的な地図作成事業に先立ち、明治初期の全国的な地図・地誌作成を担った機関で、複雑な生い立ちをもつ。同局には、移管・購入・寄贈・模写・測量製図、などを通じて数千点におよぶ地図（絵図）が蓄積されてきていた。これらの地図は、同局の縮小・移管・廃止に伴って、現在さまざまな機関に引き継がれている。本研究は、この内務省地理局における地図の蓄積過程とその管理のあり方を復元的に研究することにより、同局地図のもつ近代化における政治的文化的な役割を解明しようというものである。

このため、まず、内務省地理局に由来する地図を所蔵すると思われる諸機関の地図概要調査を行った（〇二年度）。

・ 東京大学史料編纂所

内務省地理局地誌課を引き継いだ同所には、内務省引継地図と総称される地図群がある（詳しくは後掲論文参照）。

・ 国立公文書館内閣文庫

内務省地理局地誌課の印の捺された地図群がある（同）。

・ 国土地理院

同院は、内務省地理局測量部測量課に組織的な淵源を持つ。同院の谷岡誠一氏のご好意により、同院にのこる陸地測量部関係の文書と地図を閲覧させていただいた。その結果、地理院には地理局時代の史料や地図は現存していないことが確認された。

・ 海上保安庁旧水路部（現海洋情報部）

地理局地誌課には英国製海図と海軍水路部の海図が蓄積されていたが、地理局伝来地図と目されるものは同庁海洋情報部には見あたらない。

なお、〇三年秋に開催された「伊能忠敬と日本図」において間宮林蔵「北

蝦夷地分間図」（地理局測量課印あり）が展示されていた。これは気象庁に伝来したものとわかれており、測量課地図（絵図）は内務省内に残され気象課へ伝来した可能性もあるが、現在まだ調査が行き届いていない。以上から、本研究では主として地誌課地図の蓄積を中心に、その対象を定めることとした。

続いて、東京大学史料編纂所に所蔵される内務省引継地図関係の目録の調査を行った（〇二年度）。既配架分、今回整理分を合わせて、これはおよそ四〇種類あり、このうち、『内務省地理局地誌課所蔵地図目録』（明治一八年から二三年）（RS四一四五の二一）が地誌課最後の地図目録と考えられることが判明した。そのため、同目録を調査の基本とした。

杉本が本研究の開始以前から継続してきた、史料編纂所内の内務省引継地図群の整理研究作業を踏まえ、同目録と現存する引継地図との対応関係を調査した。この結果、杉本が第一群とする地誌課引継地図はすべて同目録の中に収録されていることが判明した（〇二年度）。

内務省地理局地誌課地図の伝来する内閣文庫において、やはり同じく『内務省地理局地誌課所蔵地図目録』との照合作業を行ない、伝来関係が確定した地図についてはそのほとんどをデジタル撮影した（〇二年度から〇三年度）。

内務省地理局地誌課を引き継いだ際に、帝国大学は地図の外に地誌や目録、行政史料なども引き継いでいる。地誌や目録類は一部既に史料編纂所に図書として入架されている。しかし、行政史料については相当量が未整理のまま残り、既に何回か整理も試みられた。今回それらをまとめて、整理・目録作成を行った（〇三年度）。近々図書部を通じて公開予定である。

（横山 伊徳）

本研究関係で行なわれた研究会、研究報告、研究論文は以下の通りである。

- 二〇〇二年七月三一日科研打合せ
- 二〇〇二年九月一日科研打合せ
- 二〇〇二年九月二四日国土地理院調査
- 二〇〇四年一月二五日洋学史学会一月例会報告
- 千葉真由美「東京大学史料編纂所蔵「内務省引継地図」と旧内務省地理局文書」

二〇〇四年二月二日史料編さん所木展開催

「内務省引継地図および内務省地理局文書より」

二〇〇四年二月二七日史料編纂所附属画像史料解析センター研究集会「八瀬童子の空間認識と歴史意識」

杉本史子「八瀬・比叡山山論経過」(内務省引き継ぎ地図中「八瀬之図」の原本作成の経緯と背後の政治情勢)

論文

横山伊徳

「江戸期北方空間認識と外国資料」(石上英一編『日本の時代史 史料論』、吉川弘文館、二〇〇四年刊行予定)

小野寺淳

「近世歴史地理学の研究動向―方法論―」(高橋伸夫編『21世紀の人文地理学展望』古今書院、二〇〇三年三月)三九七-四〇九頁。

「紬の里の新しい町づくり結城市」(寺阪昭信・平岡昭利・元木靖編『関東地図で読む百年』古今書院、二〇〇三年三月)八一-八四頁。

杉本史子

「近世絵図論」(『新体系日本史』別巻一、山川出版社、二〇〇四年刊行予定)
「村方文書のなかの裁許証文」(『歴史をよむ』、東京大学出版会、二〇〇四

年刊行予定)

「歌舞伎作者並木正三と「三千世界商往来」(科学研究費補助金基盤研究A(1)「8・17世紀の東アジア地域における人・物・情報の交流 海域と港市の形成、民族・地域間の相互認識を中心に」(代表村井章介)報告書二〇〇四年三月刊行予定)

井上 聡

「御家人と荘園公領制」、五味文彦編『京・鎌倉の王権』(日本の時代史8、

吉川弘文館、二〇〇三年一月)収録、一四六-一七四頁

「Digitizing Reproduction of Shoen-ezu(荘園絵図模本の情報化)」国立歴史民俗博物館編『第六回歴史博国際シンポジウム論文集 情報技術による歴史・文化研究の新展開』収録、(同館、二〇〇三年一月)八一-八八頁

千葉真由美

「皇国地誌編纂過程における地図目録と地図主管の移動」(二〇〇四年三月『史料編纂所紀要』第十四号)